

まちなか美術講座2023

宮城県美術館コレクションものがたり

リニューアル休館中におこなう「まちなか美術講座」では、当館の40年以上の歴史の中で収集されてきたコレクションの特徴やつながりについてお話しします。

「カンヴァスを離れて—カンディンスキーからネオ・ダダまで」



2023年11月25日(土)
午後1時30分～
講師:小檜山祐幹
(当館副主任研究員)

ヴァシリー・カンディンスキー
《叙情的なるもの》詩画集『響き』より
1911年 宮城県美術館蔵

「夢みたパリ—宮城県美術館コレクションの中の
フランス近代美術」

2024年2月3日(土) 午後1時30分～ 講師:赤間和美(当館研究員)

【主催】宮城県美術館・東北工業大学

【会場】東北工業大学 一番町ロビー 2階ホール

【定員】各回50名 ※先着順 申込不要 【料金】無料

【お問合せ先】

980-0811 仙台市青葉区一番町 1-3-1 (TMビル) TEL:022-723-0538
東北工業大学一番町ロビー「まちなか美術講座」係

所蔵作品の複製(レプリカ)による 展示をおこないました

リニューアル休館中も当館所蔵作品を身近に感じていただく機会の一つとして、県庁ロビーに当館所蔵作品のレプリカを展示しました。7月3日～7日までの展示期間では、県庁を利用する多くの皆様にご覧いただくことができました。

今後も当館とその所蔵作品を紹介する企画を検討していきます。



宮城県庁1階ロビーでの展示

リニュアル休館中の 教育普及事業のお知らせ

リニュアル休館中も県内各所で様々な教育普及事業を展開しています。

「出張創作室」

当館の特徴のひとつである開館中誰もが使える「創作室」。その機能や特性の一端を県内の施設に持ち出し、キッズ・プログラムや実技ワークショップを行います。また会場をオープンアトリエとして利用できます。令和5年度は3カ所の施設で実施します。



大衛村ふるさと美術館でのキッズ・プログラムの様子

7月29日(土) 大衛村ふるさと美術館
10月28日(土) 宮城県伊豆沼・内沼サンクチュアリーセンター
12月17日(日) 角田市市民センター(かくだ田園ホール)

「出張キッズ・プログラム」

県内2カ所の自然の家を会場に、「山」や「海」をそれぞれテーマにして子ども向けのプログラムを開催します。林の中や海、砂浜の周りなどをアーティストのさくまいずみ氏とともに探検し、そこで見つけた素材をもとに作品を制作します。



9月17日(日) 「山であそぶ日」(宮城県蔵王自然の家)
10月7日(土) 「海であそぶ日」(宮城県志津川自然の家)

「学校アウトリーチ」

美術館から遠方にある学校を訪問し、児童生徒や教員を対象に鑑賞・表現の活動を行います。令和5年度は次の13校で実施する予定です。

- ・広域仙台都市圏：山元町立山下小学校
- ・広域仙南圏：柴田町立西住小学校、丸森町立丸森中学校
- ・広域大崎圏：加美町立西小野田小学校、大崎市立古川西小中学校
- ・広域栗原圏：栗原市立高清水小学校、栗原市立栗駒中学校
- ・広域石巻圏：石巻市立向陽小学校、東松島市立鳴瀬未来中学校
- ・広域登米圏：登米市立米川小学校、登米市立豊里小・中学校
- ・広域気仙沼・本吉圏：南三陸町立戸倉小学校、気仙沼市立唐桑中学校

※いずれも詳細は当館WEBサイトをご確認ください。

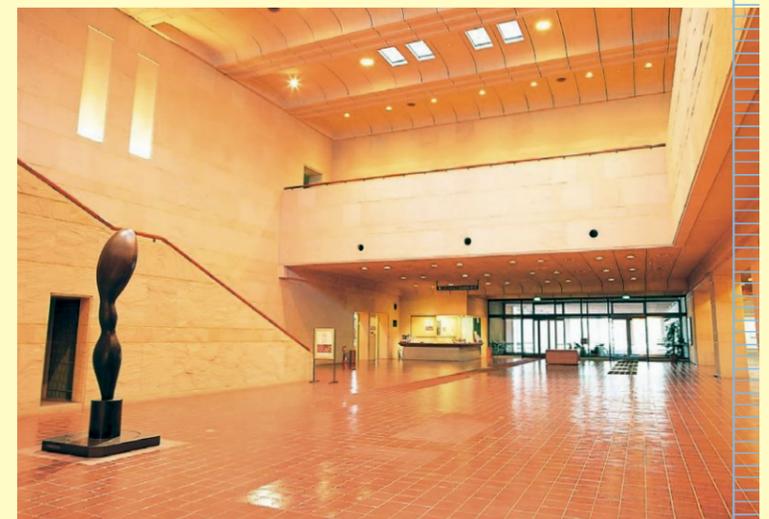
2023年9月30日発行

RENEWAL LETTER



宮城県美術館はリニューアル工事のためただいま休館中です。

宮城県美術館の本館は、昭和56年(1981年)の開館から40年以上が経過し、施設や設備の老朽化が進んでいることから、改修工事を行うこととし、令和5年6月19日から長期の休館に入りました。再開館は令和7年度中を予定しておりますが、その間の様々な活動や工事の進捗状況などについて、本誌でお知らせしてまいります。



(本誌は年間3～4回発行する予定です。)

所蔵作品ここで！

下記の展示会で宮城県美術館の所蔵作品をご覧ください。 ※展示会の詳細は各会場にお問い合わせください。

三重県立美術館「宮城県美術館所蔵 絵本原画の世界2022-23」	2023年10月7日(土)～12月10日(日)	絵本原画 350点以上
東京ステーションギャラリー「春陽会誕生100年 それぞれの闘い 岸田劉生、中川一政から岡鹿之助へ」	2023年9月16日(土)～11月12日(日)	木村莊八《お七櫓に登る》
和歌山県立近代美術館「トランスボーダー:和歌山とアメリカをめぐる移民と美術」	2023年9月30日(土)～11月30日(木)	加地為也《静物》、高橋勝蔵《静物》
久留米市美術館「芥川龍之介と美の世界 二人の先達—夏目漱石、菅虎雄」	2023年10月28日(土)～2024年1月28日(日)	カンディンスキー《響き》

休館中の当館の情報については、WEBサイトも併せてご覧ください

<https://www.pref.miyagi.jp/site/mmoa/>



こんな風に変わります



キッズ・スタジオ
(仮称)

↑
旧講堂

子どもたちが、鑑賞、素材体験、造形遊びなどの美術体験ができるスペースです。また、学校等の団体を対象としたオリエンテーションの実施など、多目的に活用することができます。室内には現在の造形遊戯室の機能を併設し、絵本を読んだり、積み木で遊ぶことができます。

※旧講堂部分には、個展やグループ展を開催できる県民ギャラリーも整備します。

情報・交流
ラウンジ
(仮称)

↑
旧図書室

北庭に面した眺めの良い立地を生かし、開放的なくつろぎの空間を創出します。ここでは、誰もが自由に滞在でき、美術と美術館に関わる様々な情報に触れることができます。また、映像放映やレクチャーを行うスペースもラウンジの西側に併設します。



見える
収蔵庫

↑
旧県民
ギャラリー

来館者は、いつでも、だれでも、絵を絵画ラックにかけた状態で収蔵している様子を見ることができます。

※旧県民ギャラリー部分には、常設展示や企画展示を行う新しい展示室も整備します。

中庭ほか
外構等

中庭や前庭などの床タイルは劣化が進んでいるため、劣化箇所の貼替えを行います。また、外部の手摺、中庭の柱の再塗装や、汚れが目立っている本館外壁を洗浄し、きれいな見た目になります。



宮城県美術館が開館

1981
昭和56年



展示室の様子

創作室

1981年11月3日、カンディンスキー作品31点、クレー作品10点などを含む700点余りの所蔵作品とともに開館しました。第1回の特別展は『現代日本の美術』。展示室だけでなく、中庭での展示やパフォーマンスもおこなわれています。さらに、オープンアトリエ(創作室)の設置、現代作家を招いての公開制作やワークショップも話題になりました。

中庭での展示(中谷美二子《霧の彫刻 #47590 "四角い霧I"》)



第1回『みやぎの5人』展開催

宮城県ゆかりの現代作家の活動を紹介する展覧会。継続的に開催され、後の『アートみやぎ』展等へと引き継がれました。

1983
昭和58年



会場風景(高山登《遊殺》)

「洲之内コレクション」を収蔵

1989
平成元年



今も人気のある「洲之内コレクション」はこの年に収蔵されました。

長谷川満二郎《猫》

佐藤忠良 記念館開館

1990
平成2年



佐藤忠良記念館

アリスの庭

宮城県出身の彫刻家・佐藤忠良の作品を展示する記念館が開館。本館との間には「アリスの庭」も作られました。

特色ある作品の収蔵が続く

1995
平成7年

前庭にダニ・カラヴァン《マアヤン》を設置。さらにこの年、カンディンスキー初期の代表作《商人たちの到着》を収蔵しています。



ダニ・カラヴァン《マアヤン》



ヴァシリー・カンディンスキー
《商人たちの到着》

1998
平成10年

絵本原画の収集が始まる

当館の絵本原画コレクションは、月刊絵本『こどものとも』(福音館書店刊)の初期の原画が核となっています。

公共建築百選に選出

『ルノワール展 Renoir. Modern Eyes』開催

1999
平成11年

1日平均3000人!初めて10万人の観覧者を集めた、話題の展覧会でした。



エントランスの行列

『所蔵作品による全館展示 コレクションの四半世紀』開催

2006
平成18年

開館以来のコレクションの歴史を、全館を使って振り返りました。

東日本大震災発生

文化財レスキューの拠点のひとつとして活動に取り組みました。

2011
平成23年

『フェルメールからの ラブレター展』開催

震災を乗り越えて開催された展覧会。フェルメールの作品3点が宮城に集いました。

ヨハネス・フェルメール《手紙を書く女》
ワシントン・ナショナル・ギャラリー



2020
令和2年

震災から10年、 復興を祈念した展覧会の開催

『奈良・中宮寺の国宝展』では中宮寺本尊の国宝・菩薩半跏思惟像を展示しました。



国宝・菩薩半跏思惟像

2023~
令和5年~

大規模改修の ため長期休館

改修事に向け、空っぽになった展示室

